

乳質改善から取り組む酪農生産性向上対策：伊那家

畜保健衛生所 久保田和弘

安全で高品質な生乳生産と効率的な飼養管理を推進するため、7月から12月にかけて2回、管内全戸のバルク乳細菌検査を実施。検討会議を開催し農家を選定。課題農家の個体乳検査及び必要に応じて牛群ドックを行い、総合的に対策を検討。A農場は夏季に体細胞数が高く、黄色ブドウ球菌(SA)保菌牛が多いため(頭数割合で69%)、飼料給与改善、搾乳ラインの点検と洗浄方法及び搾乳方法の見直しを実施。B農場は体細胞数やSA保菌牛が多いため(86%)、搾乳手順や搾乳ラインの見直し等を実施。C農場は乳質の悪化に加え、7月に4頭の死廃牛が発生。調査の結果、飲料水の不良、換気の不良、飼料品質低下と思われるビタミン不足などの改善点を指摘。今回酪農場を全戸巡回することにより、農家ごとに酪農技術の課題が提起され、今後さらに酪農場個々に対応した密接な指導が必要。